

2022
3月
平塚市

平塚市 自然環境評価書

概要版





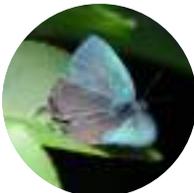
目次

	1. 自然環境評価書作成の背景と目的	1
	2. 平塚市の自然環境の概要	1
	3. 調査内容	2
	①調査エリア	2
	②調査対象種	3
	③調査体制	4
	④調査方法	4
	4. 評価方法	5
	①評価のスケール	5
	②評価の視点	5
	③調査及び評価の流れ	5
	5. 調査結果	6
	①調査期間	6
	②調査結果	6
	6. 評価結果	12
	①マクロスケールの評価	12
	②ミクロスケールの評価	14
	7. 今後の課題	26
	調査協力者一覧	27

表紙の生きもの



ツリフネソウ



オオミドリシジミ



カヤネズミ



タゲリ



カワニナ



クロベンケイガニ



アズマヒキガエル幼体



1. 自然環境評価書作成の背景と目的

平塚市には、西部丘陵、河川、水辺、海浜等に多様な生物が生息する豊かな自然環境が残されていますが、農地、屋敷林の減少や宅地等の開発による緑の減少に伴い様々な生きものへの影響が危惧されています。

このため、平塚市では、かながわ生物多様性計画及び平塚市環境基本計画に基づき生物多様性を保全するための「(仮称)平塚市生物多様性保全アクションプラン」を策定することとしています。このアクションプラン策定の基礎資料として、市民団体「ひらつか生物多様性推進協議会」(以下、協議会)が、平塚市域の自然環境調査を実施し、自然環境評価書にまとめました。自然環境調査は以下の目的のもとに実施しています。

- I 生物多様性の現状を客観的に評価し、「見える化」する。
- II 保全上の課題を明らかにして、自然環境の保全の方向性を示す。
- III 生物多様性アクションプランを策定するための基礎資料とする。
- IV 生物多様性の保全や生態系ネットワークの形成等の施策の基礎資料とする。
- V 市民などの多くの主体との協働による継続的な調査体制の構築に寄与する。
- VI 調査を通じた市民参加の推進と身近な自然や保全活動への理解を醸成する。



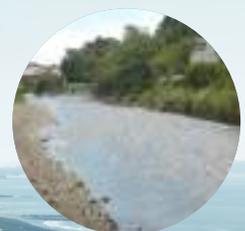
2. 平塚市の自然環境の概要

平塚市は、神奈川県南部の中央に位置し、南側は相模湾奥部に面しています。東方は相模川を隔てて茅ヶ崎市・寒川町に、西方は大磯町・二宮町・中井町に隣接し、北方は厚木市・伊勢原市・秦野市に続いています。

市内の地形は、相模湾に面した海岸線に形成された砂州、砂丘地帯、相模川と金目川の流域に発達した沖積平野、市西部の丘陵地などの洪積台地に大別されます。相模沖積平野の沖積層の厚さは、相模川河口付近で約90m、東名高速道路付近で約55mであり、上流に行くにしたがって薄くなります。この沖積層は下位から、基底礫層、下部砂礫・泥層、中部砂礫層、上部泥・砂層、頂部泥・砂礫層に区分されています。

気候区分では、冬は暖かく夏は涼しい太平洋側気候に属しています。平塚市の年降水量(合計)2016～2020年の平均値は1,557.3mmです。年平均気温16.5℃、年平均最高気温20.5℃、年平均最低気温12.6℃と年較差が少なく温暖多雨と海洋性気候の特徴があります(平塚市環境保全課「大気常時監視測定データ」より)。

市内には自然植生がきわめて少なく、大部分が宅地や耕作地として利用されていますが、「生物多様性保全上重要な里地里山」に選定されている西部丘陵地域や、北部台地に二次林や植林が見られます。





3. 調査内容

1 調査エリア

● 調査エリア一覧

陸域（里地里山）			水域（河川・海岸）		
番号	調査エリア	略称	番号	調査エリア	略称
①	上吉沢地区	吉沢	⑧	金目川地区	金目川
②	土屋霊園周辺	土屋霊園	⑨	相模川（寒川取水堰周辺）	相模川・取水堰
③	愛宕裏地区	愛宕裏	⑩	相模川（馬入水辺の楽校周辺）	相模川・馬入
④	びわ青少年の家周辺	琵琶	⑪	海岸地区	海岸
⑤	土屋里山体験フィールド周辺	里山			
⑥	高麗山公園地区	高麗山			
⑦	総合公園	総合公園			



①上吉沢地区



③愛宕裏地区



⑥高麗山公園地区



⑧金目川地区



⑨相模川（寒川取水堰周辺）



⑪海岸地区

● オプション地点一覧

植物オプション地点			魚類・甲殻類・水生貝類オプション地点		
番号	調査エリア	略称	番号	調査エリア	略称
①	北金目水田	北金目	①	金目川・高麗大橋	高麗大橋
鳥類オプション地点			②	座禅川・脇橋	脇橋
			③	渋田川・鷹匠橋	鷹匠橋
①	金目川河口	金目川河口	④	南金目・用水路・田んぼ	南金目
②	金目川・花水橋周辺	花水橋	⑤	板戸川・前橋	前橋
③	鈴川・立堀親水公園周辺	立堀親水公園	⑥	鈴川・大正堰	大正堰
④	鈴川・岡崎	岡崎	⑦	北豊田・用水路・田んぼ	北豊田
⑤	渋田川・鷹匠橋周辺	鷹匠橋			
⑥	北豊田	北豊田			

● 調査エリア位置図



● オプション位置図



2 調査対象種

植物、昆虫、哺乳類、両生類・爬虫類については、あらかじめ選定した指標種を対象に、鳥類、魚類については、指標種を設定せず全種を対象に調査を行いました。甲殻類と水生貝類は、魚類調査の際に採集、確認された種を記録しました。

指標種は、平塚市の豊かな自然環境を評価するために、樹林、草地、水辺、海岸の4つの環境タイプを設定し、各環境タイプを代表する種をそれぞれ選定しました。



分類	環境タイプ			
	樹林	草地	水辺	海岸
植物	トウゲシバ	フユノハナワラビ	オモダカ	ケカモノハシ
	ハカタシダ	ウマノアシガタ	ミズオオバコ	コウボウムギ
	ヒトリシズカ	ヒメハギ	ホシクサ	コウボウシバ
	ヤマコウバシ	クサボケ	マコモ	マルバアカザ
	ウラシマソウ	ワレモコウ	チダケサシ	オカヒジキ
	シュンラン	ミツバツチグリ	ネコノメソウ	ハマエンドウ
	コ克蘭	タカトウダイ	ツボスマレ	ハマニガナ
	キチジョウソウ	カナビキソウ	ツリフネソウ	ハマヒルガオ
	カマツカ	オカトラノオ	キツリフネ	ハマボウフウ
	アカガシ	ナンバンギセル	カワヂシャ	
	シバヤナギ	ツリガネニンジン	アブノメ	
	イチヤクソウ	ノアザミ	キクモ	
	マルバアオダモ	タムラソウ	ミノホオズキ	
	ツクバネウツギ			
	昆虫	クツワムシ	ヒガシキリギリス	ニホンカワトンボ
トゲナナフシ		シブイロカヤキリ	コシボソヤンマ	オサムシモドキ
ニホントビナナフシ		オナガササキリ	ミルンヤンマ	ルリエンムシ
コマダラウスバカゲロウ		マツムシ	カトリヤンマ	シロスジコガネ
ハンミョウ		スズムシ	ヒメアカネ	ハマヒョウタンゴミムシダマシ※
ヒメマイマイカブリ		カンタン	マユタテアカネ	ニセハマヒョウタンゴミムシダマシ※
クロカナブン		ショウリョウバッタモドキ	シオヤトンボ	クロマメゾウムシ
タマムシ		ナキイナゴ	コバネササキリ	
ヨツスジハナカミキリ		クルマバッタ	キンヒバリ	
シロスジカミキリ		ツノトンボ	ケラ	
ウスタビガ		ギンイチモンジセセリ	タイコウチ	
ジャコウアゲハ		ジャノメチョウ	コオイムシ	
ゴイシジミ			マツモムシ	
ウラゴマダラシジミ			ネグロセンブリ	
ウラナミアカシジミ			ヘイケボタル	
オオミドリシジミ		ホタルトビケラ		
ヒオドシチョウ				
ゴマダラチョウ				
両生類・爬虫類	アズマヒキガエル	ヒガシニホントカゲ	アカハライモリ	
	ヤマアカガエル	アオダイショウ	ツチガエル	
	シュレーゲルアオガエル	シマヘビ	ヒバカリ	
	シロマダラ	ヤマカガシ	ニホンマムシ	
ジムグリ				
哺乳類	カヤネズミ			
指標種は設定せず確認した種を記録	鳥類	全種		
	魚類		全種	
	甲殻類 水生貝類		全種	

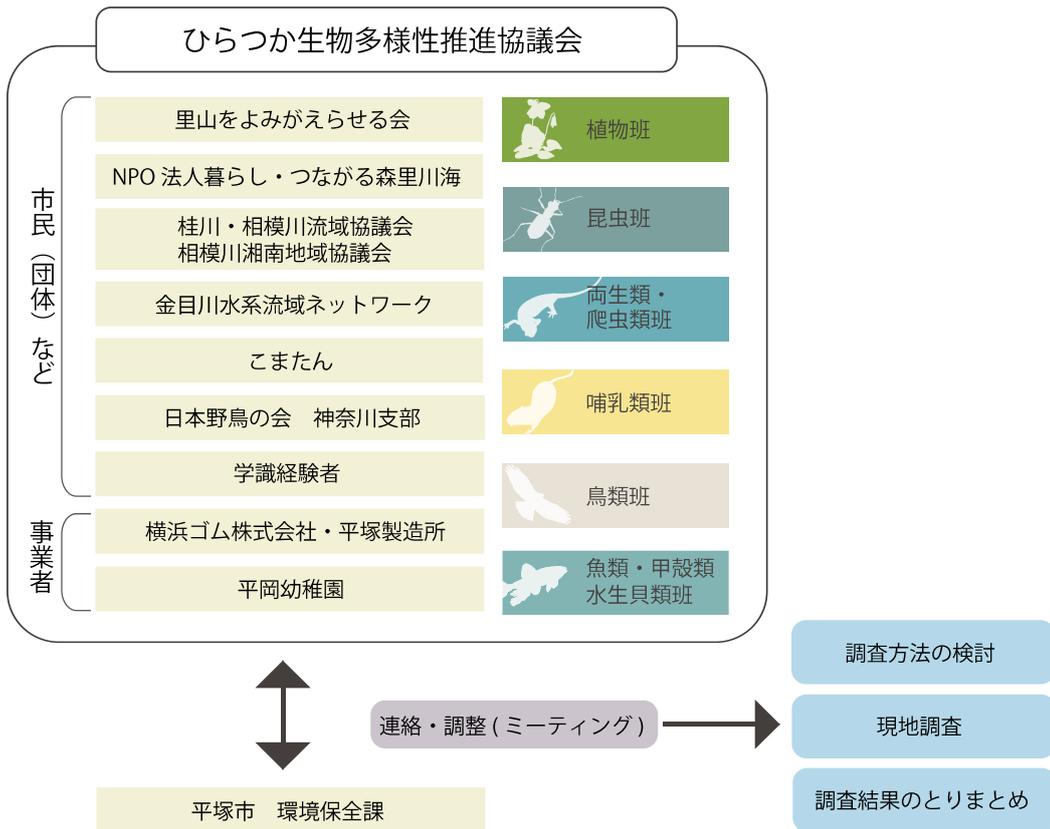
※調査結果では、ハマヒョウタンゴミムシダマシとニセハマヒョウタンゴミムシダマシの2種はまとめて示しました。



3. 調査内容

3 調査体制

調査を実施した「協議会」は、生物や自然環境に対して造詣があり、市内の里山や河川、沿岸で活動する「市民」、「事業者」などによって組織されました。調査は植物、哺乳類、鳥類、両生類・爬虫類、昆虫、魚類・甲殻類・水生貝類の6班に分かれ、各分野の専門性を有する市民や学識経験者であるリーダー・サブリーダーが中心となり調査を実施しました。



4 調査方法

項目	調査方法	
指標種	植物	任意踏査を行い、指標種の種名、位置を記録しました。
	昆虫	調査エリア内で指標種が生息している可能性の高い環境を抽出し、日中及び夜間において調査を実施しました。目撃、採集、鳴き声及び痕跡により確認された指標種の種名、個体数、位置を記録しました。
	両生類・爬虫類	任意踏査を行い、目撃及び捕獲により種名、個体数、位置を記録しました。
	哺乳類	任意踏査を行い、指標種の種名、位置を記録しました。
全種	鳥類	予め設定したルートを歩くラインセンサスや録音機の設置を行い、種名、個体数、行動(繁殖行動)を記録しました。ルートセンサスは午前中に、録音は日の出前後、夕方、深夜に行いました。
	魚類	調査エリア内の水域において、タモ網、サデ網、投網及びカゴ網等で採集した種を記録しました。また、目視により確認された種も記録しました。
	甲殻類・水生貝類	魚類調査の際に採集、確認された種を記録しました。



4. 評価方法

1 評価のスケール

マクロスケールとミクロスケールにより評価を行いました。

- ・マクロスケール・・・調査エリア間での評価。
- ・ミクロスケール・・・各調査エリア内における評価。

2 評価の視点

環境タイプごとの種の多様性

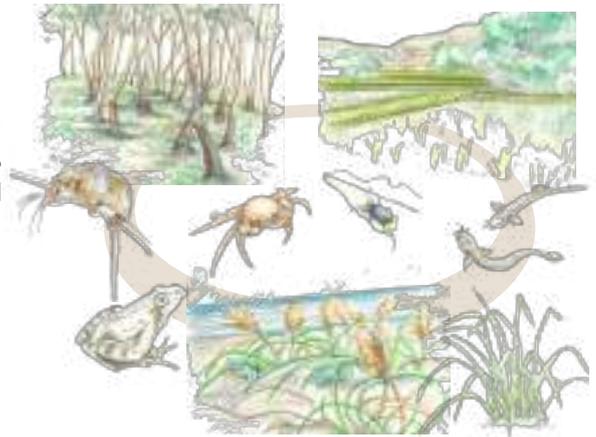
同じ環境タイプであっても、その面積や微細な環境、周辺環境とのつながりといった条件の違いからそこで見られる生きものが異なります。各環境タイプで確認された指標種を調査エリア間で比較し、環境タイプごとに種の多様性を評価しました。

生態系の多様性

里地里山では、様々な環境要素がモザイク状に存在することで、多様な動植物が生育・生息する生態系が成立しています。様々な環境タイプの指標種が確認される調査エリアでは、エリア内に多様な環境要素を有し、豊かな生態系が形成されていると考えられます。

生態系ネットワーク

生息地が分断化することで、動植物の個体間の交流が困難になり個体数の減少や個体群の絶滅につながる事例が数多く知られています。調査エリア周辺の土地利用状況等から生態系ネットワークの評価を行いました。



3 調査及び評価の流れ

現地調査

植物、動物（哺乳類、鳥類、両生類・爬虫類、昆虫、魚類・甲殻類・水生貝類）を対象に現地調査を行いました。

結果のまとめ

調査で確認された種や位置情報をデータベースとして整理しました。今後もデータベースとして蓄積されていくように整理しました。

評価

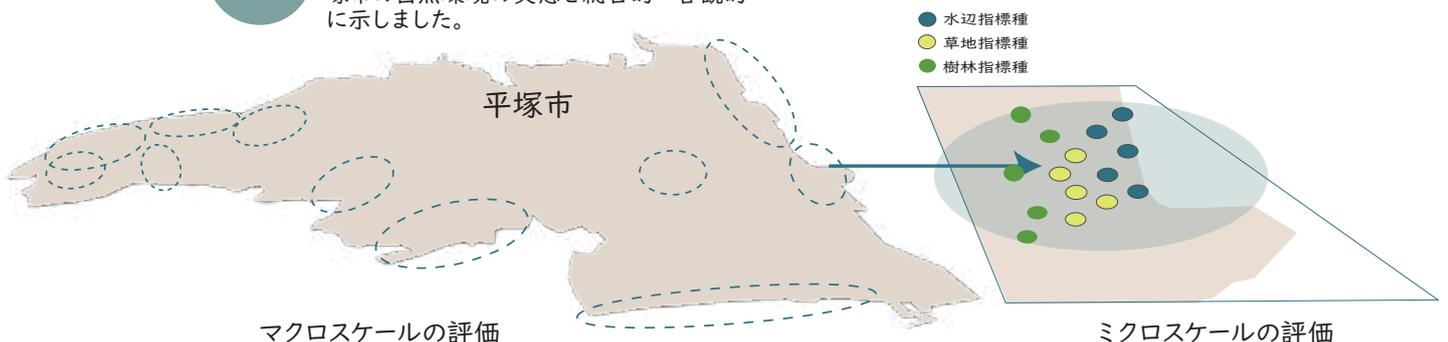
現地調査結果を用いて評価を行いました。評価は右のスケールと視点から行い、平塚市の自然環境の実態を総合的・客観的に示しました。

評価のスケール

- マクロスケール（調査エリア間）
- ミクロスケール（調査エリア内の分布）

評価の視点

- 環境タイプごとの種の多様性（指標種の種数、分布状況）
- 生態系の多様性（樹林、草地、水辺など）
- 生態系ネットワーク（地形や緑の連続性）





5. 調査結果

1 調査期間

調査は2019年3月～2021年11月に行いました。

2 調査結果

植物

環境 タイプ	種名	陸域							水域				オプ ション	確認 エリア 数	
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	①		
樹 林	トウゲシバ														0
	ハカタシダ	●					●								2
	ヒトリシズカ	●			●		●								3
	ヤマコウバシ	●	●	●	●										4
	ウラシマソウ	●	●				●	●							4
	シュンラン	●	●	●	●	●									5
	コ克蘭		●												1
	キチジョウソウ	●				●	●								3
	カマツカ	●	●	●	●	●	●								6
	アカガシ														0
	シバヤナギ			●	●										2
	イチヤクソウ	●	●	●	●	●									5
	マルバアオダモ		●												1
	ツクバネウツギ		●	●											2
草 地	フユノハナワラビ		●	●	●	●									4
	ウマノアシガタ		●												1
	ヒメハギ		●	●											2
	クサボケ	●	●	●	●	●		●							6
	ワレモコウ	●	●	●	●	●	●	●							7
	ミツバツチグリ	●	●	●	●	●		●							6
	タカトウダイ		●	●			●								3
	カナビキソウ		●							●					2
	オカトラノオ	●	●	●	●		●								5
	ナンバンギセル														0
	ツリガネニンジン	●	●	●	●	●	●								6
	ノアザミ	●	●	●	●	●	●	●							7
	タムラソウ	●	●	●	●	●	●								5
	水 辺	オモダカ		●	●	●	●			●				●	
ミスオオバコ													●		1
ホシクサ															0
マコモ										●	●				2
チダケサシ		●	●	●	●										4
ネコノメソウ				●											1
ツボスミレ			●					●							2
ツリフネソウ			●												1
キツリフネ		●	●												2
カワヂシャ									●	●	●				3
アブノメ															0
キクモ															0
ミゾホオズキ		●	●	●											3
海 岸		ケカモノハシ												●	
	コウボウムギ												●		1
	コウボウシバ												●		1
	マルバアカザ												●		1
	オカヒジキ												●		1
	ハマエンドウ												●		1
	ハマニガナ												●		1
	ハマヒルガオ												●		1
	ハマボウフウ												●		1
計	49種	18	26	20	16	11	11	2	6	3	2	9	2	-	

※種名及び配列については原則として、「神奈川県植物誌2018」（神奈川県植物誌調査会）に準拠しました。

● 昆虫

環境 タイプ	種名	陸域							水域				確認 エリア 数
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	
樹林	クツウムシ	●	●	●	●	●			●				6
	トゲナナフシ	●	●	●	●	●	●						6
	ニホントビナナフシ	●	●	●	●	●	●						6
	コマダラウスバカゲロウ	●	●	●	●	●	●						6
	ハンミョウ	●											1
	ヒメマイマイカブリ	●	●	●	●	●				●	●		7
	クロカナブン	●	●	●	●	●	●	●	●		●		9
	タムシ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		10
	ヨツスジハナカミキリ		●	●			●						3
	シロスジカミキリ	●	●	●	●								4
	ウスタビガ	●	●	●	●	●	●						6
	ジャコウアゲハ	●	●	●	●	●	●	●	●				8
	ゴイシシジミ		●	●	●								3
	ウラゴマダラシジミ	●	●	●	●		●						5
	ウラナミアカシジミ	●	●	●		●							4
	オオミドリシジミ	●	●	●	●	●	●						6
ヒオドシチョウ	●	●	●		●	●			●			6	
ゴマダラチョウ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		10	
草地	ヒガシキリギリス	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	10
	シブイロカヤキリ	●	●	●	●	●			●	●	●		8
	オナガササキリ	●	●	●	●	●	●		●	●	●		8
	マツムシ	●				●			●	●	●	●	6
	スズムシ	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	10
	カンタン	●	●	●	●	●	●		●	●	●		8
	ショウリョウバッタモドキ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		10
	ナキイナゴ			●	●					●			3
	クルマバッタ	●	●	●	●								4
	ツノトンボ	●	●	●	●	●			●				6
	ギンイチモンジセセリ									●			1
	ジャノメチョウ	●	●	●	●	●	●		●				7
水辺	ニホンカワトンボ	●	●	●	●	●			●				6
	コシボソヤンマ	●	●	●	●				●				5
	ミルンヤンマ	●	●	●	●		●						5
	カトリヤンマ		●	●	●	●			●				5
	ヒメアカネ			●	●	●							2
	マユタテアカネ		●	●	●	●			●				5
	シオヤトンボ	●	●	●	●	●							5
	コバネササキリ		●	●	●	●							2
	キンヒバリ	●	●	●	●	●			●		●		7
	ケラ		●	●	●	●	●		●	●	●		8
	タイコウチ		●	●									2
	コオイムシ		●	●	●	●			●				5
	マツモムシ		●	●									2
	ネグロセンブリ												0
ヘイケボタル		●	●	●	●							4	
ホタルトビケラ	●	●	●	●				●				5	
海岸	ヒョウタンゴミムシ												0
	オサムシモドキ											●	1
	ルリエンマムシ												0
	シロスジコガネ											●	1
	ハマヒョウタンゴミムシダマン類※											●	1
クロマゼウムシ											●	1	
合計	52種	32	40	41	36	30	20	5	22	13	13	7	

※種名及び配列については原則として、「神奈川県昆虫誌2018」（神奈川県昆虫談話会）に準拠しました。

※ハマヒョウタンゴミムシダマンとニセハマヒョウタンゴミムシダマンの2種。



5. 調査結果

哺乳類・両生類・爬虫類

環境タイプ	分類群	種名	陸域							水域				確認エリア数	
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪		
樹林	両生類	アズマヒキガエル	●	●		●	●	●	●	●					7
		ヤマアカガエル	●	●		●	●								4
		シュレーゲルアオガエル	●	●	●	●	●						●		6
	爬虫類	シロマダラ			●		●								2
ジムグリ						●								1	
草地	哺乳類	カヤネズミ	●	●	●	●	●	●			●	●	●	9	
	爬虫類	ヒガシニホントカゲ	●	●	●	●	●				●				6
		アオダイショウ	●	●	●		●								4
		シマヘビ	●	●	●				●				●		5
		ヤマカガシ		●	●	●	●	●			●		●		7
水辺	両生類	アカハライモリ							●						1
		ツチガエル		●	●	●									3
	爬虫類	ヒバカリ	●	●	●	●	●	●			●				7
		ニホンマムシ		●	●										2
計	-	14種		8	11	10	8	10	5	1	5	1	4	0	

※両生類・爬虫類の種名及び配列については原則として、「日本産爬虫両生類標準和名リスト 2021年9月19日版」(日本爬虫両棲類学会)に準拠しました。
 ※一部の希少種については確認地点情報を非公表とし、合計種数からも除いています。

鳥類

種名	陸域											水域						オプション調査						確認エリア数	外来種		
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	①	②	③	④	⑤	⑥	①	②	③	④	⑤	⑥				
キジ	●	●		●	●			●		●	●														7		
オシドリ								●																		1	
オカヨシガモ									●	●	●	●	●	●									●			6	
ヨシガモ								●							●	●	●	●								4	
ヒドリガモ									●	●	●	●	●	●	●	●	●									8	
マガモ	●							●	●	●	●	●	●	●	●	●	●									9	
カルガモ	●	●	●	●	●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●							●		16	
ハシビロガモ										●	●	●	●	●	●	●										3	
オナガガモ										●	●	●	●	●	●	●										1	
シマアジ											●	●	●	●	●	●										1	
トモエガモ								●	●	●	●	●	●	●	●	●										4	
コガモ	●		●					●	●	●	●	●	●	●	●	●					●	●	●	●		12	
ホシハジロ									●	●	●	●	●	●	●	●										2	
キンクロハジロ									●	●	●	●	●	●	●	●										3	
スズガモ										●	●	●	●	●	●	●										1	
クロガモ											●	●	●	●	●	●										2	
カワアイサ									●	●	●	●	●	●	●	●										3	
ウミアイサ										●	●	●	●	●	●	●										2	
カイツブリ								●	●	●	●	●	●	●	●	●										9	
アカエリカイツブリ										●	●	●	●	●	●	●										2	
カンムリカイツブリ									●	●	●	●	●	●	●	●										5	
ハジロカイツブリ										●	●	●	●	●	●	●										2	
キジバト	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●						●	●			17	
アオバト	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●										13	
コアホウドリ											●	●	●	●	●	●										1	
オオミズナギドリ											●	●	●	●	●	●										2	
ハシボソミズナギドリ											●	●	●	●	●	●										1	
カワウ		●		●				●	●	●	●	●	●	●	●	●										14	
ウミウ												●	●	●	●	●										1	
ヨシゴイ											●	●	●	●	●	●										1	
ミゾゴイ										●	●	●	●	●	●	●										4	
ゴイサギ	●	●	●	●	●	●			●	●	●	●	●	●	●	●										15	
ササゴイ										●	●	●	●	●	●	●										5	
アマサギ											●	●	●	●	●	●										2	
アオサギ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●										17	
ダイサギ	●		●		●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●										14	
チュウサギ										●	●	●	●	●	●	●										3	
コサギ								●	●	●	●	●	●	●	●	●										9	
クロサギ											●	●	●	●	●	●										1	
クイナ								●						●	●	●	●									5	
ヒクイナ					●						●	●	●	●	●	●										2	
バン											●	●	●	●	●	●									●	6	
オオバン								●	●	●	●	●	●	●	●	●										8	
ホトトギス	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●										10	
ツツドリ				●	●	●																				3	
カッコウ				●		●																				2	
ヨタカ		●																								1	



● 鳥類

種名	陸域							水域				オプション調査						確認 エリア 数	外来 種
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	①	②	③	④	⑤	⑥		
アマツバメ	●	●				●					●							4	
ヒメアマツバメ	●			●	●	●		●	●	●	●	●	●	●			●	12	
タゲリ															●		●	2	
ケリ															●		●	2	
ムナグロ										●	●						●	3	
イカルチドリ								●	●	●			●	●				5	
コチドリ					●			●	●	●	●	●	●	●		●	●	11	
メダイチドリ										●	●							2	
セイタカシギ															●			1	
ハリオシギ																	●	1	
タシギ								●		●			●	●	●		●	6	
オオソリハシシギ											●							1	
チュウシャクシギ										●	●							2	
コアオアシシギ																	●	1	
アオアシシギ										●							●	2	
クサシギ																	●	1	
タカブシギ																	●	1	
キアシシギ								●	●	●	●	●	●	●			●	8	
ソリハシシギ											●							1	
イソシギ								●	●	●	●	●	●	●	●			9	
キョウジョシギ											●							1	
ミュビシギ											●	●						2	
トウネン										●	●							2	
ハマシギ										●	●							2	
エリマキシギ																	●	1	
タマシギ									●									1	
ツバメチドリ										●								1	
ユリカモメ									●		●	●	●					4	
ズグロカモメ										●								1	
ウミネコ										●	●	●	●					3	
セグロカモメ										●	●	●	●					3	
オオセグロカモメ											●	●	●					2	
コアジサシ									●	●	●	●	●					4	
ミサゴ	●								●	●	●	●	●					6	
ハチクマ	●	●																2	
トビ	●	●		●		●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	14	
ツミ	●		●	●		●	●											5	
ハイタカ	●			●		●	●	●	●	●			●		●		●	9	
オオタカ	●	●	●	●		●	●	●	●	●			●	●	●		●	13	
サシバ		●	●															2	
ノスリ	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●		●			13	
オオコノハズク				●														1	
フクロウ	●	●	●	●	●	●	●						●					8	
アオバズク	●	●		●		●												4	
カワセミ	●							●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	12	
アリスイ											●	●	●	●	●			4	
コゲラ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		16	
アカゲラ	●	●	●	●	●	●												5	
アオゲラ	●	●	●	●	●	●		●										7	
チョウゲンボウ	●			●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	14	
ハヤブサ			●		●	●			●	●	●		●	●	●	●		9	
サンショウクイ	●	●	●	●	●	●							●	●				8	
サンコウチョウ	●	●	●	●		●												5	
モズ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	17	
カケス	●	●	●	●		●												5	
オナガ						●	●	●	●	●	●		●	●		●		8	
ハシボソガラス	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	17	
ハシブトガラス	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	17	
ヤマガラ	●	●	●	●	●	●	●	●			●		●	●				11	
シジュウカラ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		16	
ヒバリ	●	●		●	●			●	●	●	●				●		●	10	
ツバメ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	17	
コシアカツバメ	●	●			●			●	●	●	●	●	●					9	
イワツバメ		●			●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	13	
ヒヨドリ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	17	
ウグイス	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		16	
ヤブサメ	●		●			●												3	



5. 調査結果

● 鳥類

種名	陸域							水域				オプション調査						確認 エリア 数	外来 種
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	①	②	③	④	⑤	⑥		
エナガ	●	●	●	●	●	●	●	●			●		●	●				11	
オオムシクイ										●	●			●				3	
メボソムシクイ			●											●				1	
エゾムシクイ	●	●					●											3	
センダイムシクイ	●	●					●	●										4	
メジロ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	16	
オオヨシキリ			●	●				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	12	
コヨシキリ										●								1	
セッカ								●	●	●	●				●		●	6	
キレンジャク		●											●	●				3	
ヒレンジャク		●		●			●						●	●				5	
ゴジュウカラ							●											1	
ミンサザイ				●														1	
ムクドリ	●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	15	
コムクドリ	●			●	●					●	●	●	●	●				8	
カラムクドリ												●						1	
トラツグミ	●	●	●	●	●	●												6	
クロツグミ	●	●	●				●											5	
シロハラ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	12	
アカハラ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	13	
ツグミ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	17	
コマドリ		●																1	
ルリビタキ	●	●	●	●		●		●										6	
ジョウビタキ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	16	
ノビタキ		●								●	●	●	●	●			●	5	
イソヒヨドリ					●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	12	
エゾビタキ	●					●												2	
コサメビタキ						●												1	
キビタキ	●	●	●	●	●	●	●				●							9	
オオルリ	●						●				●							3	
カヤクグリ							●											1	
スズメ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	17	
キセキレイ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	14	
ハクセキレイ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	16	
セグロセキレイ	●	●	●	●	●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	13	
ビンズイ		●	●	●		●	●			●	●	●	●	●	●	●	●	10	
タヒバリ				●				●	●	●				●	●	●	●	9	
アトリ	●					●												2	
カワラヒワ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	17	
マヒワ	●																	1	
ベニマシコ		●	●							●								3	
ウソ	●			●		●				●								4	
シメ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●				12	
イカル	●	●	●	●	●	●	●		●	●			●	●				11	
ホオジロ	●	●	●	●	●	●		●	●	●		●	●	●	●	●	●	16	
ホオアカ															●			1	
カシラダカ	●	●	●	●	●			●	●	●			●	●		●		11	
アオジ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	16	
クロジ	●	●	●	●	●	●							●					7	
オオジュリン									●	●	●							3	
コジュケイ	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●		●	●	●	●	●	13	●
カワラバト(ドバト)	●	●	●		●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	15	●
ガビチョウ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●				13	●
ソウシチョウ	●		●	●	●	●												5	●
168種	74	66	57	66	56	70	43	62	70	96	97	64	80	65	57	47	49		4

※分類の配列、種名等は基本的に「日本鳥類目録 改訂第7版(2012)」(日本鳥学会)に準拠しました。
 ※一部の希少種については確認地点情報を非公表とし、合計種数からも除いています。

● 魚類・甲殻類・水生貝類

分類群	種名	陸域						水域		オプション調査							確認 エリア 数	外来 種	
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑧	⑩	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦			
魚類	ニホンウナギ							●	●	●	●	●						5	
	コイ									●	●	●			●			4	●
	ギンブナ									●	●	●			●	●		5	
	キンギョ			●											●	●		1	●
	フナ属										○							1	
	オイカワ								●		●	●	●	●	●	●		7	●
	カワムツ											●		●				3	●

魚類・甲殻類・水生貝類

分類群	種名	陸域					水域		オプション調査							確認 エリア 数	外来種	
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑧	⑩	①	②	③	④	⑤	⑥			⑦
魚類	アブラハヤ	●	●					●			●		●	●	●		7	
	ウグイ							●	●	●	●	●			●		6	
	モツゴ									●		●	●	●			4	
	タモロコ							●				●	●	●	●		5	●
	カマツカ											●		●	●		3	●
	ニゴイ							●	●	●		●				●	5	
	ドジョウ		●	●		●		●			●		●	●		●	8	
	ドジョウ属											○	○			○	3	
	ヒガシマドジョウ							●			●		●	●			4	
	ホトケドジョウ								●								4	
	ナマズ									●		●		●	●		4	●
	ワカサギ															●	1	●
	アユ							●			●			●	●		4	
	ボラ								●	●		●					3	
	グッピー								●								1	●
	ミナミメダカ									●	●	●			●	●	5	
	ブルーギル	●								●					●		3	●
	カスミアジ									●							1	
	シマイサキ								●								1	
	カマキリ									●							1	
	カワアナゴ								●	●							2	
	ミズハゼ								●	●							2	
	マハゼ								●	●							2	
	アシシロハゼ								●								1	
	ボウズハゼ							●		●	●			●	●		5	
	アベハゼ								●	●							1	
	ヌマチチブ							●	●	●		●	●		●		6	
	ヒナハゼ								●								1	
	シマヨシノボリ		●					●			●	●	●	●	●		7	
	オオヨシノボリ		●									●					2	
ゴクラクハゼ							●		●		●			●		4		
トウヨシノボリ										●						1		
ヨシノボリ属									○							1		
ウロハゼ								●								1		
スミウキゴリ		●					●		●	●	●	●	●			7		
ウキゴリ									●		●					2		
甲殻類	ハウネンエビ														●	1		
	ミズムシ	●				●										2		
	ミゾレヌマエビ							●	●		●					3		
	トゲナシヌマエビ	●														1		
	カワリヌマエビ属の一種		●		●			●		●	●	●	●	●	●	9	●	
	ヌマエビ	●						●								2		
	ミナミテナガエビ							●		●	●	●	●	●		5		
	ヒラテナガエビ							●		●	●	●	●	●		7		
	テナガエビ							●	●							2		
	スジエビ		●							●		●				3		
	テナガエビ科									○						1		
	アメリカザリガニ	●	●					●		●	●	●	●	●	●	9	●	
	サワガニ	●	●	●		●	●			●		●				7		
	クロベンケイガニ							●								1		
	アカテガニ							●								1		
	モクスガニ							●	●	●	●	●	●	●		8		
	台湾ヒライソモドキ							●								1		
台湾オオヒライソガニ							●								1			
アリアケモドキ							●								1			
水生貝類	イシマキガイ							●								1		
	スクミリンゴガイ										●				●	2	●	
	マルタニシ														●	1		
	ヒメタニシ							●		●					●	3		
	カワニナ	●	●	●		●						●	●			6		
	チリメンカワニナ											●				1		
	サカマキガイ							●								1	●	
	台湾シジミ							●			●	●	●		●	5	●	
シジミ類	○														1			
合計	66種	9	10	3	1	4	1	20	28	25	19	26	21	18	22	12	15	

※種名及び配列については原則として、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（2021年度8月）」（国土交通省）に準拠しました。
 ※甲殻類、水生貝類は、魚類調査の際に採集または確認された種を記録しました。
 ※一部の希少種については確認地点情報を非公表とし、合計種数からも除いています。
 ※○は未同定種で、種数合計には含めないものとした。





6. 評価結果

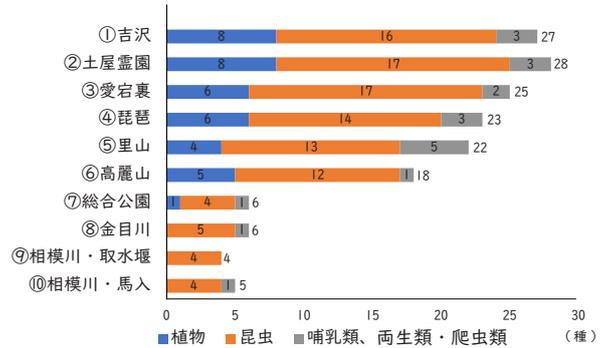
1 マクロスケールの評価

環境タイプごとの種の多様性評価

● 樹林の指標種

樹林の指標種は土屋霊園で28種と最も多く確認され、次いで吉沢で27種、愛宕裏で25種、琵琶で23種が確認されました。

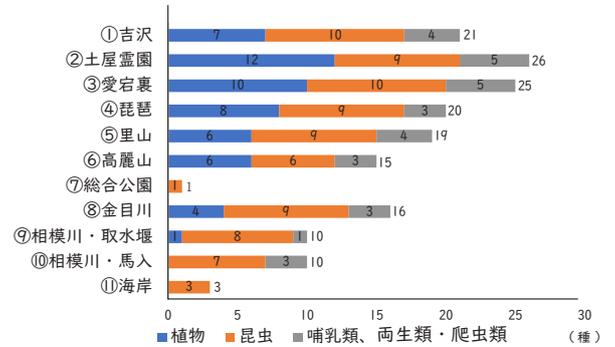
植物は吉沢、土屋霊園で最も多く確認され、昆虫は土屋霊園、愛宕裏で、哺乳類・両生類・爬虫類は里山で最も多く確認されました。



● 草地の指標種

草地の指標種は土屋霊園で26種と最も多く確認され、次いで愛宕裏で25種が確認されました。

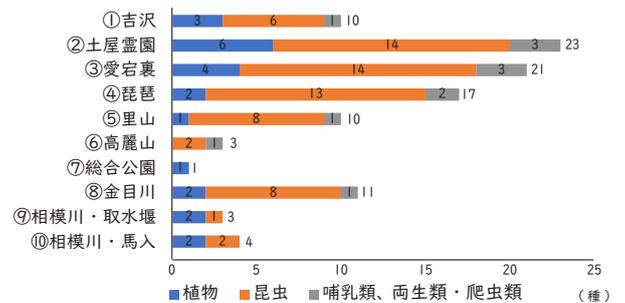
植物は土屋霊園で最も多く確認され、昆虫は吉沢、愛宕裏で、哺乳類・両生類・爬虫類は土屋霊園、愛宕裏で最も多く確認されました。



● 水辺の指標種

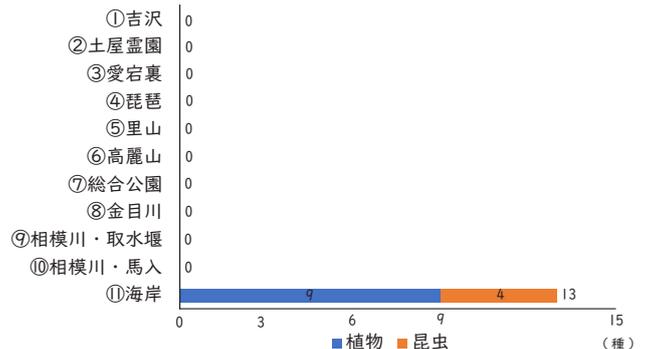
水辺の指標種は土屋霊園で23種と最も多く確認され、次いで愛宕裏で22種、琵琶で17種が確認されました。

植物は土屋霊園で、昆虫は土屋霊園、愛宕裏で、哺乳類・両生類・爬虫類は土屋霊園、愛宕裏で最も多く確認されました。



● 海岸の指標種

海岸の指標種は海岸でのみ13種が確認されました。

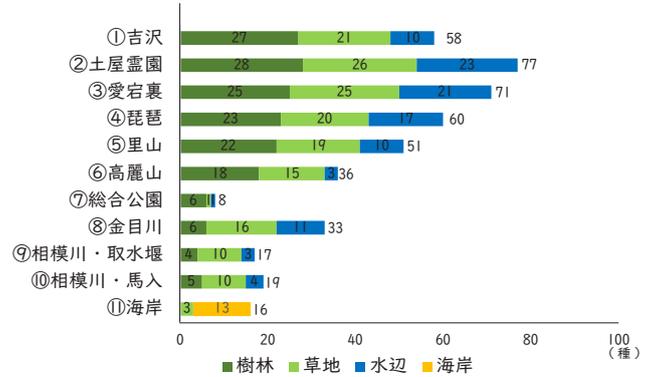


生態系の多様性評価

各調査エリアの指標種の総数

各調査エリアの指標種の総数は、土屋霊園で最も多く、77種が確認され、次いで愛宕裏で71種が確認されました。

両調査エリアでは、樹林、草地だけでなく水辺の指標種も多く、良好な水辺環境を含んだ多様な生態系が保全されています。

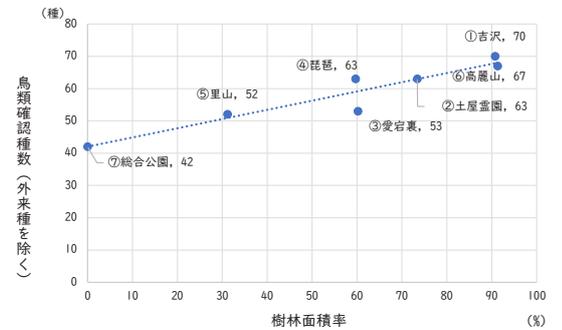


生態系ネットワーク評価

樹林面積率による陸域の評価

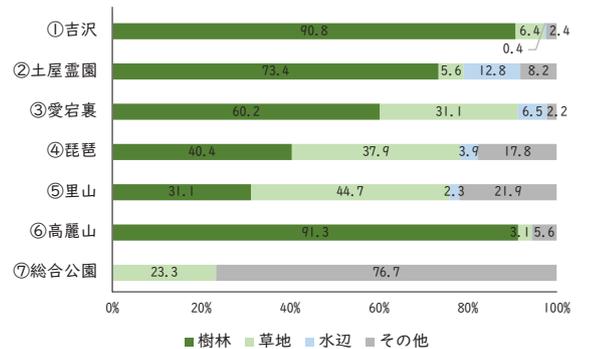
高麗山や吉沢など樹林面積率が高い調査エリアでは鳥類の確認種数（外来種を除く）が多くなる傾向が見られました。

「モニタリングサイト1000里地調査第2期（2008-2012年度）とりまとめ報告書」（環境省自然環境局生物多様性センター，2014）では、周辺に森林が多く残されている場所ほど鳥類が多く生息していることが示されており、樹林面積率が高い両エリアは、樹林性鳥類のネットワーク上の拠点として重要な場所と考えられます。



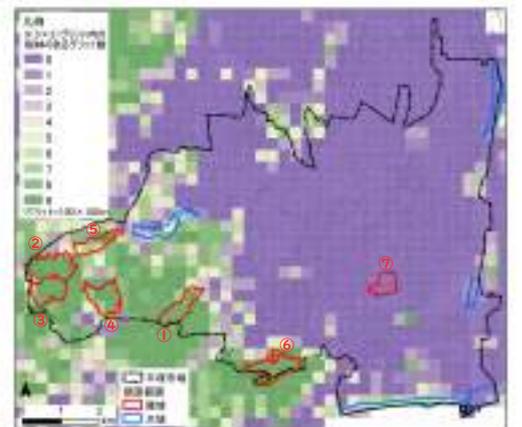
調査エリアにおける各環境タイプ（樹林、草地、水辺、その他）が占める割合をみると、吉沢と高麗山では樹林が大部分を占めるのに対し、土屋霊園、愛宕裏、琵琶、里山では、草地や水辺を含んだ様々な環境タイプが混在する里山環境です。

また、総合公園は人工物の多い都市的な緑地となっています。



樹林連続性による陸域の評価

植生図（環境省）をもとに作成した樹林連続性評価図をみると、⑥高麗山、①吉沢、②土屋霊園、③愛宕裏、④琵琶では樹林の連続性が高い地域となっています。





6. 評価結果

2 ミクロスケールの評価

①上吉沢地区

調査 エリア の概況

上吉沢地区は、平塚市西部に位置し、南側は大磯町に隣接しています。調査エリアの面積は約45.9haで、葛川水系の不動川支流の宮下川とその集水域にあたります。調査エリア西端は、市内の最高地点の標高約195mであり、大磯町の鷹取山の稜線へとつながり、まとまりのある樹林地が残されています。

宮下川上流域は流路勾配が急で谷底部が狭い典型的な溪流景観を呈していますが、中流部には吉沢の池があり、水辺環境に変化を与えています。調査エリア北側の尾根道は、菜の花畑が広がる開放的な環境で、雄大な大山を望む景勝地となっています。



調査エリアの確認状況と指標種分布による評価

- 調査エリア北東の沢沿いで水辺の指標種のキツリフネ、ミゾホオズキ等、樹林の指標種のカタタシダ、北側の尾根部でウラナミアカシジミ等の樹林の指標種が確認されました。
- 谷底を沢が流れ、樹林の面積の割合が高いため、樹林の指標種が多くなっています。
- 南東側の畑周辺では、オオトラノオ等の草地指標種が確認されました。
- 他のエリアでは確認されなかった樹林指標種のハンミョウが記録されました。サンコウチョウ、オオルリ等の鳥類は、一般的に樹林密度が高く、広い樹林に生息します。平塚市の中でまとまった樹林がある貴重な場所と言えます。

確認種数

調査項目	環境タイプ			
	樹林	草地	水辺	合計
植物	8	7	3	18
昆虫	16	10	6	32
哺乳類	8			
両生類・爬虫類				
鳥類	74			
魚類・甲殻類	9			
水生貝類				

キツリフネ

オオルリ



保全に向けた課題

広域的な樹林の保全

今回の調査エリアの中で最も多くの鳥類が確認されており、まとまった樹林として、平塚市域だけでなく隣接する大磯町の樹林も同時に保全する必要があります。

管理不足や過管理

管理不足により草地の荒廃や樹林構造の単一化が起り、生物多様性が低下する恐れがあります。また、過度な草刈りによる生育・生息環境の劣化の恐れがあります。生物多様性に配慮した適切な管理が求められます。

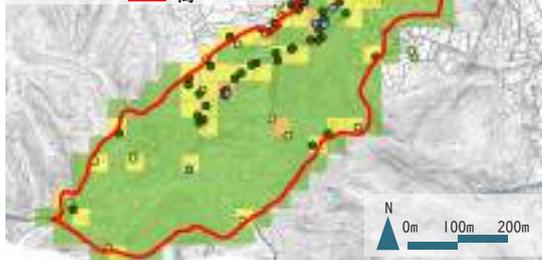
外来種対策

吉沢の池では、外来種のアメリカザリガニや特定外来生物のブルーギルの生息が確認され、捕食圧による在来の魚類や水生昆虫等への影響が懸念されるため、駆除や密放流の対策等を検討する必要があります。

凡例 指標種評価マップ

指標種の位置 都市的土地利用

- 樹林
- 草地
- 水辺
- 海岸
- 低
- ▲ 高



※調査エリア全域をくまなく調査したものではないため、地形などの条件などにより、生物多様性が高くても、低い評価となっている場合があります。また、生態系ネットワークの観点から、周辺も含めた調査エリア全体の保全が必要です。

②土屋霊園周辺

調査 エリア の概況

土屋霊園周辺は、平塚市西端に位置し、西側は中井町に隣接しています。調査エリアの面積は約 66.6ha で、金目川水系の座禅川源流域の一つで、複数の谷戸が存在します。

調査エリアの最奥部の谷戸低地は、霊園として利用されていますが、調査エリアの中央部に位置する駒ヶ滝の谷戸には、谷戸田と多様性の高い斜面林が残されています。丘陵の頂部は標高 130m 前後で、遠藤原と呼ばれる北側の台地には、畑地が広がり、丹沢山地を眺望する景観に優れた場所です。



調査エリアの確認状況と指標種分布による評価

- 調査エリア西側の土屋霊園の入口付近の斜面のコナラ林にイチヤクソウやヒメマイマイカブリ等の樹林の指標種とクサボケやクルマバタ等の草地の指標種が多く確認され、面積は小さいものの、調査エリア内で最も指標種が多い範囲となっています。
- 調査エリア中央部の南方向に開口する谷戸の谷底部の広い範囲にコバネササキリやツノトンボ、ヤマカガシ等の水辺と草地の指標種が集中しており、上記のコナラ林の次に指標種が多い範囲となっています。
- 東側の尾根には他の調査エリアでは確認されていないマルバアオダモや他のエリアでの確認が少ないツクバネウツギ等の樹林の指標種が多く、面積は小さいものの良好な樹林環境が残されています
- エリア内ではカマツカ（バラ科）やヒガシキリギリス等の樹林や草地の指標種が記録されています。
- 植物では、土屋霊園のみ確認された種が 4 種ありました。これらの種が、生育する環境は特に重要と言えます。
- 樹林や草地、水辺がモザイク状に存在し、これを利用する多様な鳥類が見られます。谷戸はカシラダカやシメ、シロハラ、開けた畑地はツグミなどの冬鳥の越冬場所としても貴重です。

確認種数

調査項目	環境タイプ				
	樹林	草地	水辺	合計	
指標種	植物	8	12	6	26
	昆虫	17	9	14	40
	哺乳類 両生類・爬虫類	11			
全種	鳥類	66			
	魚類・甲殻類 水生貝類	10			

ツクバネウツギ

マツモムシ



保全に向けた課題

盗掘・採集圧対策

隣接する③愛宕裏エリアと合わせて平塚市内でも特に指標種が多く確認されており、希少な動植物は盗掘・密猟等のおそれがあるため対策が必要です。

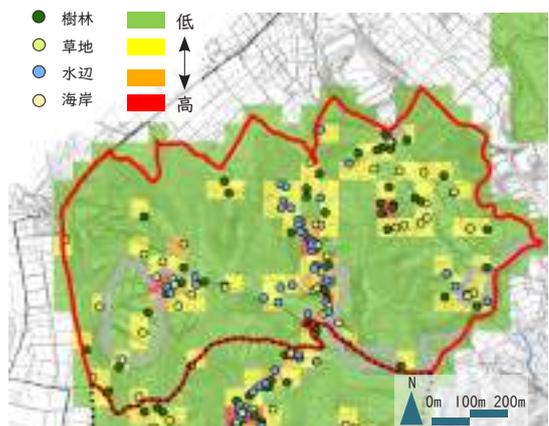
耕作放棄への対応

耕作放棄や遷移に伴う湿地の乾燥化や草地の荒廃により、これらの環境に依存する生きものの生息範囲が縮小する可能性があり、保全対策を検討する必要があります。

外来種対策

アメリカザリガニが確認されており、在来種への影響が懸念されるため、個体数を抑えるための対策が必要です。

凡例 指標種評価マップ
指標種の位置 都市的土地利用





6. 評価結果

③愛宕裏地区

調査 エリア の概況

愛宕裏地区は、平塚市西部に位置し、西側は中井町に、北側は②土屋霊園にそれぞれ隣接しています。調査エリアの面積は約48.4haで、②土屋霊園と同様に、金目川水系の座禅川源流域の一つです。

調査エリアの中央部には、北東方向に開口する谷戸があり、谷戸奥部では谷底部の形状が入り組み、複雑な地形を呈しています。谷底面には水田や畑地が、丘陵斜面には雑木林が存在し、里山の景観がよく残されています。谷戸の東側には、標高115mの愛宕山があり、山頂付近はコナラを主とする二次林が見られ、一部は愛宕山公園として整備されています。



調査エリアの確認状況と指標種分布による評価

- 指標種の最も多い場所は、北方向に開口する谷戸の谷底の水田周辺であり、マツモシ、ミゾホオズキ等の水辺の指標種やワレモコウ等の草地の指標種が確認されました。
- 指標種がやや多い場所は愛宕神社周辺と谷戸の斜面下部のコナラ林の林縁部となっている範囲で、愛宕神社周辺ではヒメハギやジャコウアゲハ、谷戸の斜面下部ではカマツカ(バラ科)やオオミドリシジミ等の草地と樹林の指標種が確認されました。
- ネコメソウは、今回の調査では愛宕裏でのみ確認されました。本種が生育する谷戸斜面の湿った環境は特に重要と言えます。
- 指標種ではありませんが、イヌアワ、ネズミガヤ等の他の調査エリアでは見られない植物が確認されました。
- 多様な環境を利用する様々な小鳥類が生息しています。

確認種数

調査項目	環境タイプ				
	樹林	草地	水辺	合計	
指標種	植物	6	10	4	20
	昆虫	17	10	14	41
	哺乳類 両生類・爬虫類	10			
全種	鳥類	57			
	魚類・甲殻類 水生貝類	3			

ヒメハギ



オオミドリシジミ



保全に向けた課題

盗掘・採集圧対策

隣接する②土屋霊園エリアと合わせて平塚市内でも特に指標種が多く確認されており、希少な動植物は盗掘・密猟等のおそれがあるため対策が必要です。

耕作放棄への対応

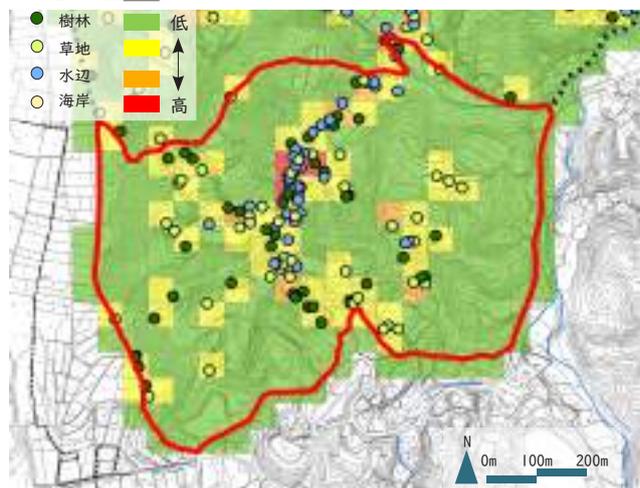
耕作放棄や遷移に伴う湿地の乾燥化や草地の荒廃により、これらの環境に依存する生きものの生息範囲が縮小する可能性があり、保全対策を検討する必要があります。

外来種対策

谷戸部ではオオブタクサやセイタカアワダチソウの繁茂などにより、限られたカヤ場の消失が懸念されるため、対策が必要です。

今回の調査ではアメリカザリガニの生息は確認されていませんが、隣接する②土屋霊園エリアでは確認されており、今後、侵入・定着をさせないためにモニタリングが必要です。

凡例 指標種評価マップ
指標種の位置 都市的土地利用



④びわ青少年の家周辺

調査 エリア の概況

びわ青少年の家周辺は、平塚市西部に位置し、金目川水系の座禅川支流の丘陵地です。調査エリアの面積は約 53.1ha で、調査エリアの南側には、大磯町にまたがるゴルフ場があります。座禅川支流は、調査エリア内でさらに2分岐し、北西側の流域では水田や畑地が多く分布し、北東側の流域では樹林、農地、集落がモザイク状に組み合わさった土地利用が維持されており、いずれも良好な里山環境が残されています。びわ青少年の家の周辺には、まとまった樹林地があり、野外活動や散策などを通して、里山の自然とふれあうことができます。



調査エリアの確認状況と指標種分布による評価

- 調査エリアの北西側に開口する谷戸の谷底部でヒメアカネ、コバネササキ等の水辺と樹林の指標種が集中して確認されました。この範囲が調査エリアでは最も指標種が多くなっています。
- 谷戸の斜面林等のコナラ林等の林縁ではワレモコウ、ゴマダラチョウ等の草地や樹林の指標種が確認されました。
- キビタキをはじめとした樹林をよく利用する鳥が見られます。フクロウも見られることから餌となるネズミ類等の小動物が多く生息していると考えられます。

確認種数

調査項目	環境タイプ			
	樹林	草地	水辺	合計
植物	6	8	2	16
昆虫	14	9	13	36
哺乳類	8			
両生類・爬虫類	8			
鳥類	66			
魚類・甲殻類	1			
水生貝類	1			

チダケサシ シュレーゲルアオガエル



保全に向けた課題

過剰利用・採集圧対策

びわ青少年の家の周辺の散策路等では、散策者による過剰利用に伴う自然環境の劣化や希少な動植物の盗掘・密猟等への対策が必要です。

耕作放棄への対応

耕作放棄や遷移に伴う湿地の乾燥化や草地の荒廃により、これらの環境に依存する生きものの生息範囲が縮小する可能性があり、保全対策を検討する必要があります。

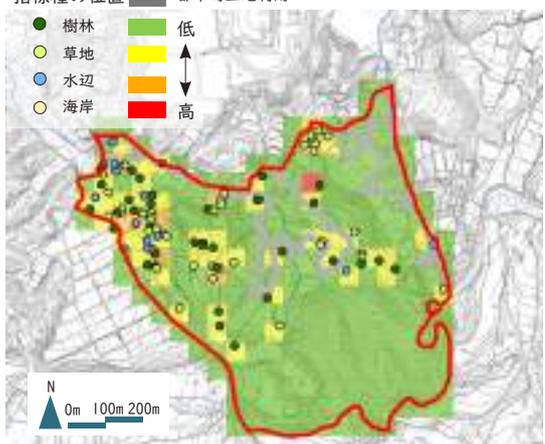
水生生物の生態系ネットワーク

調査エリア内を流れる座禅川右支流では、落差工が連続して設置されており、水生生物の遡上及び降下の障害である可能性があります。

生物多様性保全の普及啓発

自然とのふれあいの場として利用されているため、生物多様性の保全の普及啓発の拠点として活用を推進することが期待されます。

凡例 指標種評価マップ





6. 評価結果

⑤土屋里山体験フィールド周辺

調査 エリア の概況

土屋里山体験フィールド周辺は、平塚市西部に位置し、金目川水系の座禅川左岸の丘陵地で、面積は約32.0haです。座禅川沿いには集落が散在し、尾根筋には耕作地が多くみられ、丘陵斜面にはコナラやクヌギ等で構成される二次林が帯状に続いています。調査エリアの南西側にある谷戸には、水田や素掘りの水路、草地、雑木林等の昔ながらの里山環境が残されており、土屋里山体験フィールドとして活用されています。ここでは市民活動として伝統的な里山の維持管理が行われ、良好な里山環境が保全されています。



調査エリアの確認状況と指標種分布による評価

- 調査エリア中央部の南に開口した谷部の平坦地の水田周辺にヒバカリ、カトリヤンマ等の水辺の指標種が集中し、この範囲が調査エリア内で最も指標種の種数が多くなっています
- 中央部北側の尾根と斜面上部ではヒオドシチョウ、ワレモコウ等の樹林と草地の指標種が多く確認され、調査エリアでは上記の次に指標種が多い範囲となっています。
- 調査エリア東側に伸びる斜面にフユノハナワラビ、キチジョウソウ等の草地、樹林の指標種が確認されています。
- ホオジロ類やカワラヒワ、モズなど開けた環境を好む鳥類がよく見られ、シメやツグミなど冬鳥も利用しています。
- 谷戸田や素掘りの水路が残され、水生生物に良好な生息水域を提供しています。

確認種数

調査項目	環境タイプ			
	樹林	草地	水辺	合計
植物	4	6	1	11
昆虫	13	9	8	30
哺乳類 両生類・爬虫類	10			
鳥類	56			
全種 魚類・甲殻類 水生貝類				4

ドジョウ



シオヤトンボ



保全に向けた課題

過剰利用・採集圧対策

自然体験の場として利用されているため、来訪者による過剰利用に伴う自然環境の劣化や希少な動植物の盗掘・密猟等への対策が必要です。

耕作放棄への対応

耕作放棄や遷移に伴う湿地の乾燥化や草地の荒廃により、これらの環境に依存する生きものの生息範囲が縮小する可能性があり、保全対策を検討する必要があります。

水生生物の生態系ネットワーク

谷戸水路が合流する座禅川支流は、両岸及び河床がコンクリートで護岸され、水路との合流点に落差工が設置されているため、水路と河川間での水生生物の移動の障害となっています。外来種の侵入等の問題にも配慮しつつ、簡易な魚道の設置等を総合的に検討する必要があります。

生物多様性保全の普及啓発

自然とのふれあいの場として利用されているため、生物多様性の保全の普及啓発の拠点として活用を推進することが期待されます。

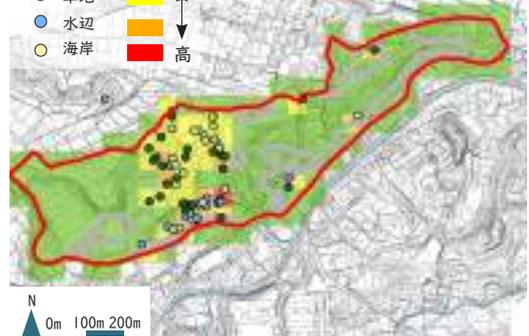
凡例 指標種評価マップ

指標種の位置 都市的土地利用

- 樹林
- 草地
- 水辺
- 海岸

低

高



⑥高麗山公園地区

調査 エリア の概況

高麗山公園地区は、平塚市南部に位置し、大磯町にまたがる公園です。調査エリアは、平塚市側の公園域とその周辺緑地等の一部で、面積は約61.0haです。調査エリアのほとんどが樹林地で占められ、標高180.9mの浅間山から標高168mの高麗山(大磯町)にかけての稜線とその斜面地には、常緑広葉樹を主体とする樹林帯が見られます。園内には複数のハイキングコースが整備され、多様な樹木や野草、野鳥などを観察することができます。エリアの南側にある湘南平は、相模湾や丹沢山地の眺望にすぐれた景勝地として整備されています。



調査エリアの確認状況と指標種分布による評価

- 調査エリアの南側の浅間山付近の常緑広葉樹林でカマツカ(バラ科)、オコトラノオ等の樹林と草地の指標種が集中しています。北東部の常緑広葉樹林でも樹林や草地の指標種が多く確認されました。
- 高麗山公園の湘南平と子供の森の広場周辺ではタカトウダイ、ウラゴマダラシジミ等の草地と樹林の指標種が見られます。
- キビタキやアオゲラなど樹林を中心に生活する鳥類がよく見られます。照ヶ崎海岸へ飛来するアオバトにとっては採食地・休息地・峙(ねぐら)として重要な場所です。

確認種数

調査項目	環境タイプ				
	樹林	草地	水辺	合計	
指標種	植物	5	6	0	11
	昆虫	12	6	2	20
	哺乳類 両生類・爬虫類	5			
全種	鳥類	70			
	魚類・甲殻類 水生貝類	1			

ハカタシダ



キビタキ



保全に向けた課題

適切な公園利用の推進

公園の園路周辺では、植生の踏み荒らしや希少な動植物の盗掘、野鳥の繁殖への影響等が懸念されるため対策が必要です。

適切な公園管理

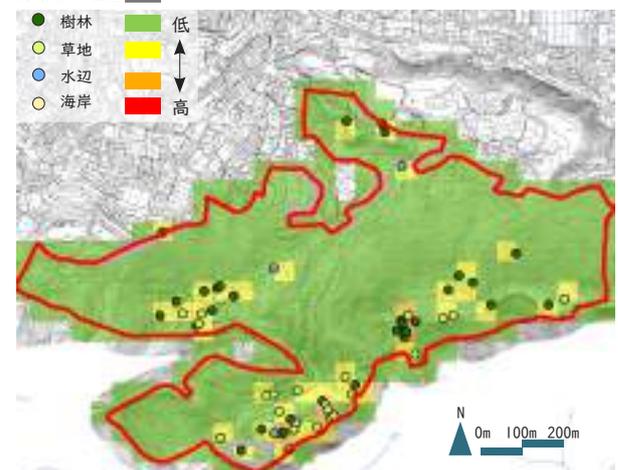
過度な管理により、樹林の乾燥化や草地環境の劣化が生じないように、健全な自然環境を維持できる適切な管理手法の検討が求められます。

既に極相林への遷移が進んでいる樹林では、樹林の管理方法を検討する必要があります。

生物多様性の普及啓発

自然環境の保全に配慮しながら、園内のハイキングコースを自然体験や観察の場として活用することで、来園者に向けた生物多様性保全の普及啓発効果が期待されます。

凡例 指標種評価マップ
指標種の位置 都市的土地利用





6. 評価結果

⑦総合公園

調査 エリア の概況

総合公園は、平塚市中央部に位置する面積約29.5haの都市公園です。多数の樹木が植栽された園内には、スポーツ施設やレクリエーション施設等が設置され、多くの市民に利用されています。南側の一画には、人の立ち入りが制限された「野鳥の森」があり、中央の池ではコガモが越冬するほか、時にはカワセミやアオサギの姿も見られます。池に面して観察用窓を備えた木製の壁が設置されており、野鳥の生態を観察できます。市街地にありながら、野鳥や昆虫等、多くの生きものを気軽に観察することができます。



調査エリアの確認状況と指標種分布による評価

- 園路沿いのクスノキ、スダジイ、エノキ等の樹林周辺では、タマムシやゴマダラチョウが確認されました。
- 南側の芝生広場（平塚の原っぱ）の周囲でジャコウアゲハやショウリョウバッタモドキが確認されました。
- アカハラやアオジなど、市街地ではあまり見られない鳥類が見られることから、西部丘陵や相模川周辺に生息している鳥類が行き来していることも考えられます。

確認種数

調査項目	環境タイプ			
	樹林	草地	水辺	合計
植物	1	0	1	2
昆虫	4	1	0	5
哺乳類	1			
両生類・爬虫類	43			
鳥類	43			
魚類・甲殻類	実施せず			
水生貝類	実施せず			

アズマヒキガエル
幼体



ショウリョウバッタ
モドキ



保全に向けた課題

適切な管理の検討

過度な管理による樹林の乾燥化や草地環境の劣化が生じないように、健全な自然環境を維持できる適切な管理手法の検討が求められます。

外来種対策

都市部に位置し、外来種が侵入・定着しやすい環境にあり、適切な管理が求められます。また飼育生物や園芸種を持ち込まないよう利用者への啓発も必要です。



⑧金目川地区

調査 エリア の概況

金目川地区は、平塚市北西部に位置し、金目川中流の土屋橋から観音橋までの川と河川敷ならびに流域の一部で面積は約37.7haです。金目川はこの区間では、緩やかに蛇行しながら流れ、蛇行点に淵が見られる以外は、全般に流れは浅く、瀬が卓越し、河床や河原には礫が目立ちます。金目川の左岸では、沖積平野に水田が広がり、集落が散在します。右岸側では、土屋橋から座禅川の合流点までは左岸同様に水田が広がり、下流では、河岸段丘沿いに樹林が見られます。金目川は、古くから流域の水田を潤し、人々に多くの恵みを与えてきた一方で、大雨のたびに洪水を繰り返す暴れ川の一面を持ち、現在も治水工事等が盛んです。



調査エリアの確認状況と指標種分布による評価

- 調査エリア中央の金目川右岸の湿性草地でキンヒバリやマツムシ等の水辺と草地の指標種が多く確認され、調査エリアで最も指標種の多い範囲となりました。
- 金目川沿いの水田でオモダカ、カヤネズミ等の水辺や草地の指標種が確認され、右岸の落葉樹林の林縁ではツツムシ等の樹林の指標種が確認されました。
- イカルチドリが年間を通じて見られ、セキレイ類も多く見られる中流域らしい川原環境が残されている貴重な場所です。

確認種数

調査項目	環境タイプ				
	樹林	草地	水辺	合計	
指標種	植物	0	4	2	6
	昆虫	5	9	8	22
	哺乳類 両生類・爬虫類	5			
全種	鳥類	62			
	魚類・甲殻類 水生貝類	20			

オモダカ



カワヂジャ



保全に向けた課題

人の活動の影響

気候変動による豪雨の増加が河川の自然環境に与える影響を継続的に把握する必要があります。河川改修にあたっては、生きものに配慮して施工範囲や工法等を検討する必要があります。

適切な管理の推進

水田の周辺では水辺や草地の指標種が確認されており、生きものに配慮した農業の推進を進める必要があります。

外来種対策

オオブタクサやセイタカアワダチソウの繁茂により、わずかに残されたカヤ場の縮小や消失が懸念されるため対策が必要です。

凡例 指標種評価マップ
指標種の位置 都市的土地利用





6. 評価結果

⑨相模川（寒川取水堰周辺）

調査 エリア の概況

調査エリアは、平塚市北東部に位置し、北側は厚木市と、東側は相模川をはさんで寒川町とそれぞれ隣接する相模川右岸の堤防敷及び高水敷です。河口からの距離は約7～8.5kmの範囲にあたり、面積は約35.8haで、下流端には寒川取水堰が設置されています。堰付近での流路幅は200m以上あり、堰の上流には広い湛水域が見られます。堰による水生生物の移動障害を解消するために魚道が設置されています。低水路の水際の多くは、コンクリート護岸が施されていますが、東海道新幹線架橋下流のワンド付近と中洲や寄洲のある場所では、水辺にヨシ等の湿生植物群落が見られます。高水敷の多くは、グラウンド等として整備されています。

調査エリアの確認状況と指標種分布による評価

- 調査エリア東側の相模川沿いでマコモ、カナビキソウ等の水辺や草地の指標種が多く確認されました。
- エリア北側のオギ原や河畔林ではカンタン、ゴマダラチョウ等の草地や樹林の指標種が確認されました。
- 取水堰周辺はカモ類、サギ類が多く集まる場所です。
- 指標種ではありませんが、環境省レッドリストで準絶滅危惧種に指定されているタコノアンが確認されました。

確認種数



調査項目	環境タイプ				
	樹林	草地	水辺	合計	
指標種	植物	0	1	2	3
	昆虫	4	8	1	13
	哺乳類 両生類・爬虫類	1			
全種	鳥類	70			
	魚類・甲殻類 水生貝類	実施せず			

凡例 指標種評価マップ
 指標種の位置 都市的土地利用
 ● 樹林
 ● 草地
 ● 水辺
 ● 海岸
 低
 ↑
 ↓
 高



保全に向けた課題

人の活動の影響

気候変動による豪雨の増加が河川の自然環境に与える影響を継続的に把握する必要があります。

川や河川敷の過剰利用による自然環境の荒廃が懸念されるため、利用者への啓発やゾーニングによる利用範囲の制限等の検討が必要です。

適切な管理の検討

過度な管理による樹林の乾燥化や草地環境の劣化が生じないように、健全な自然環境を維持できる適切な管理手法の検討が求められます。

外来種対策

オオブタクサやセイタカアワダチソウの繁茂により、わずかに残されたカヤ場の縮小や消失が懸念されるため対策が必要です。

特定外来生物のオオカワヂシャが確認され、在来種のカワヂシャとの競合が懸念されるため対策が必要です。

⑩相模川（馬入水辺の楽校周辺）

調査エリアの概況

調査エリアは、平塚市東部に位置し、東側の一部は相模川をはさんで茅ヶ崎市に隣接する相模川右岸の堤防敷及び高水敷です。河口からの距離が約2.8～3.2kmの範囲にあたり、面積は約14.6haです。調査エリアを含め、寒川取水堰より下流域は感潮域にあたり、潮汐運動により川の水位が変動し、干潮時には干潟が出現します。河道内には、ヨシやオギなどの湿生植物が繁茂します。調査エリア上流側の河川敷は、「馬入水辺の楽校」として、河畔林やオギ原など、河川敷の自然を活かした自然観察路やビオトープが整備されています。下流側の河川敷は花畑としてさまざまな園芸植物が植栽されています。



調査エリアの確認状況と指標種分布による評価

- 指標種がやや多い場所は調査エリア東部の相模川沿いであり、カワヂシャ等の水辺の指標種が確認されました。
- 調査エリア北東部の河畔林ではゴマダラチョウ等の樹林の指標種が確認されました。
- 調査エリア西部や中央付近の草地ではスズムシやショウリョウバッタモドキ等の草地の指標種が確認されました。
- 水域の調査エリアの中で河口に次いで多くの鳥類が観察され、鳥類にとっては調査エリア東部の川沿いが重要であると考えられます。
- 馬入水辺の楽校地先には、良好な干潟と塩性湿地の環境があり、汽水性の水生生物が豊富に見られます。

確認種数

調査項目	環境タイプ				
	樹林	草地	水辺	合計	
指標種	植物	0	0	2	2
	昆虫	4	7	2	13
	哺乳類 両生類・爬虫類	4			
全種	鳥類	96			
	魚類・甲殻類 水生貝類	28			

シブイロカヤキリ幼虫



マコモ



保全に向けた課題

人の活動の影響

気候変動による豪雨の増加が河川の自然環境に与える影響を継続的に把握する必要があります。

河川改修にあたっては、生きものに配慮して施工範囲や工法等を検討する必要があります。

川や河川敷の過剰利用による自然環境の荒廃が懸念されるため、利用者への啓発やゾーニングによる利用範囲の制限等の検討が必要です。

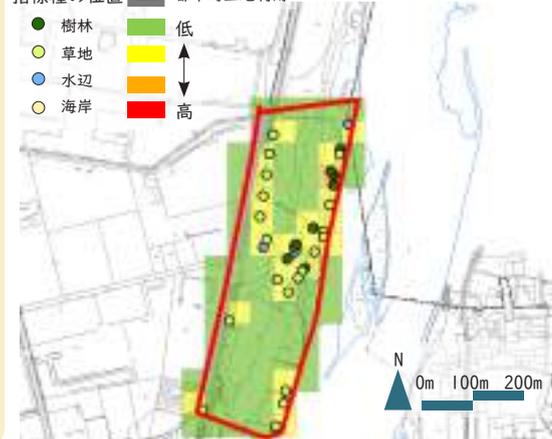
適切な管理の検討

過度な管理による樹林の乾燥化や草地環境の劣化が生じないように、健全な自然環境を維持できる適切な管理手法の検討が求められます。

外来種対策

オオブタクサやセイタカアワダチソウの繁茂などにより、わずかに残されたカヤ場の縮小や消失が懸念されるため、対策が必要です。水辺の楽校のビオトープでは、グッピーやアメリカザリガニが確認されました。在来種の生息空間として適切に機能させるために状況に応じた駆除対策が必要です。また飼育生物や園芸種を持ち込まないよう利用者への啓発も必要です。

凡例 指標種評価マップ
指標種の位置 都市的土地利用





6. 評価結果



III 海岸地区

調査 エリア の概況

平塚海岸は、市南部に位置し、相模湾奥部に面した東西約4kmの海浜で、面積は約82.3haです。調査エリアの東端と西端には、それぞれ相模川と金目川の河口が位置し、干潮時に干潟が現れる相模川河口は、「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」に選定されています。海岸線の多くは砂浜海岸で陸側の砂丘帯には、クロマツを主とする湘南海岸砂防林が設けられ、藤沢市から大磯町まで

連なっています。また、養浜と砂防林維持のため、飛砂を抑制する海浜植物の育成や砂防柵、防風ネットが設置されています。海岸は散策や釣り等のレクリエーションの空間として多くの市民に親しまれています。



出典：国土地理院撮影の航空写真（2019年6月及び2019年10月撮影）

調査エリアの確認状況と指標種分布による評価

- 調査エリア北側に帯状に分布するクロマツ林（砂防林）の海側やその間に見られる砂丘にコウボウムギやハマボウフウ等の海岸の指標種が多く見られます。
- 砂防林の海側の林縁と砂丘が海浜指標種の生育生息範囲であり、海岸線沿いに広範囲に及びます。
- 相模川河口の左岸側にはスズムシ、ヒガシキリギリス等の草地の指標種が見られます。
- 干潟はほぼ消失してしまいましたが、毎年春秋に様々な渡り鳥が中継地として利用しており、近在する代替地は無く、保全すべき貴重な場所です。

凡例 指標種評価マップ
 指標種の位置 都市的土地利用
 ● 樹林 ● 低
 ● 草地 ● 高
 ● 水辺
 ● 海岸



保全に向けた課題

砂浜の環境変化の対策

治水工事等に伴い河川からの土砂供給量が減少し、砂浜が縮小しています。また今後、気候変動による海面水位の上昇等が海岸浸食を更に進行させる可能性があります。海岸浸食の進行を防止するために養浜事業が行われていますが、施工に際しては海岸の指標種の生育環境の保全対策を検討する必要があります。

人の利用による影響の対策

砂浜の過度の利用により海浜植物の生育環境が踏み荒らされる等の影響が予想されるため、保全対策を検討する必要があります。

海浜植物が種数、個体数ともに多く確認されていますが、調査エリア内に位置する開発予定地において今後環境の変化が懸念され、保全対策を検討する必要があります。

外来種対策

養浜事業により外来種の植物が増加しており、対策を検討する必要があります。

確認種数

調査項目	環境タイプ				合計	
	樹林	草地	水辺	海岸		
指標種	植物	0	0	0	9	9
	昆虫	0	3	0	4	7
	哺乳類	実施せず				
	両生類・爬虫類	0				
全種	鳥類	97				
	魚類・甲殻類	実施せず				
	水生貝類	実施せず				

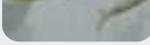
コウボウムギ



ハマボウフウ



オプション地点の結果概要

調査項目	調査エリア	確認種数	概要	代表種
植物 (指標種)	 ●北金目	2	●金目川支流の鈴川の南側に位置する約 15.7ha の範囲で、調査エリアの多くは水田として利用されています。 ●指標種の数はいくつか少ないものの、他の調査エリアでは見られないミズオオバコが確認され、本種が生育する水辺環境は重要と考えられます。	ミズオオバコ 
鳥類 (全種)	 ●金目川河口	64	●相模湾に注ぐ金目川の河口部の面積約 7.1ha の範囲です。 ●64 種が確認されており、ハシボソミズナギドリ、カラムドリは本調査エリアのみで確認されています。	ユリカモメ 
	 ●花水橋	80	●金目川下流の花水橋周辺に位置し、面積約 13.2ha のエリアです。 ●オプション調査の中で最も多くの種が確認され、調査エリア全体でも 3 番目に多くの種が確認されました。 ●周辺に⑥高麗山を含むまとまった樹林や金目川河口があり、多くの鳥類の移動経路になっていると考えられます。	カワセミ 
	 ●立堀親水公園	65	●鈴川と渋田川の合流地点に位置する面積約 9.1ha のエリアです。 ●65 種が確認されており、オプション調査の中で②花水橋に次いで多い結果となっています。	カルガモ 
	 ●岡崎	57	●鈴川の流域に広がる水田地帯で、オプション地点の中では最も面積が小さく、約 5.5ha です。 ●57 種が確認されており、セイタカシギ、ホオアカは本調査エリアのみで確認されています。タゲリは本調査エリアと⑥北豊田でのみ確認されています。	タゲリ 
	 ●鷹匠橋	47	●金目川支流の渋田川に架かる橋の一つで、河岸はコンクリートで護岸されていますが、水辺にはヨシ群落などの植生が見られます。鳥類のオプション地点の中では最も広く面積約 16.3ha の範囲です。魚類・甲殻類・水生貝類のオプションとしても設定されています。	クイナ 
	 ●北豊田	49	●平塚市北部の平野部に広がる水田地帯と用水路で、面積は約 9.6ha です。魚類・甲殻類・水生貝類のオプションとしても設定されています。 ●タシギ、コアオアシシギ、クサシギなどシギ類 6 種が本調査エリアのみで確認されています。タゲリは本調査エリアと④岡崎でのみ確認されています。	タシギ 
	魚類 甲殻類 水生貝類 (全種)	 ●高麗大橋	魚類 20 甲殻類 5	●金目川下流の高麗大橋に位置する面積約 2.0ha のエリアであり、左岸側は平塚市、右岸側は大磯町となっています。 ●魚類の確認種数が全地点の中で最も多いエリアとなっています。カスミアジ、カマキリは本調査エリアでのみ確認されました。
 ●脇橋		魚類 13 甲殻類 6	●金目川水系の座禅川の中流に位置し、面積約 1.8ha のエリアとなっています。 ●両岸はコンクリート護岸で、周辺は住宅地となっています。 ●調査エリア全体の中では③鷹匠橋と同様甲殻類が 3 番目に多い結果となっています。	アブラハヤ 
 ●鷹匠橋		魚類 17 甲殻類 6 貝類 3	●金目川支流の渋田川に架かる橋の一つで、護岸されているもののヨシ群落などの植生が見られます。 ●オプション地点の調査の中で最も多くの種が確認され、調査エリア全体でも④相模川・馬入に次いで多くの種が確認されました。トウヨシノボリは本調査エリアでのみ確認されました。	ウキゴリ 
 ●南金目		魚類 11 甲殻類 7 貝類 3	●⑦北豊田と同様の水田に隣接する用水路に位置し、面積約 1.9ha のエリアです。 ●チリメンカワニナは本調査エリアでのみ確認されました。	カワニナ 
 ●前橋		魚類 12 甲殻類 4 貝類 2	●金目川水系鈴川の支流の坂戸川の面積約 1.6ha のエリアとなっています。 ●18 種が確認されており、オイカワやアブラハヤ等の魚類やヒラテテナガエビ、モクスガニ等の甲殻類、カワニナ等の水生貝類が確認されています。	ヒラテテナガエビ 
 ●鈴川・大正堰		魚類 17 甲殻類 5	●鈴川・善波川・大根川の三川の合流地点に位置し、面積約 1.7ha のエリアです。 ●22 種が確認されており、魚類は③鷹匠橋と同じ 17 種が確認されており、調査エリア全体でも 2 番目に多くなっています。ワカサギは本調査エリアでのみ確認されました。	モツゴ 
 ●北豊田		魚類 5 甲殻類 3 貝類 4	●水田に隣接する用水路に位置し、面積約 19.1ha のエリアです。 ●魚類や甲殻類は他の地点に比べて多くないものの、水生貝類は調査エリア全体でも④相模川・馬入とともに最も多く確認されました。用水路の水辺環境は水生貝類の生息環境として重要と考えられます。	ハウネンエビ 



7. 今後の課題

● 開発など人間活動による影響の抑制

- 市街地化や森林伐採、圃場整備などの開発を抑制するための法整備等の検討が必要になります。
- 樹林率の高さが評価された調査エリアでは特に樹林面積の減少や分断化が起こらないよう対策が必要になります。調査エリアによっては市外の緑地と隣接する場合もあり、周辺自治体との連携も必要となります。
- 希少な動植物は盗掘・密猟のおそれがあるため対策が求められます。
- 利用者が多い公園や海岸、河川敷等では利用マナーの普及、啓発等が求められます。
- ①吉沢、②土屋霊園、③愛宕裏、④琵琶、⑤里山は、いずれも大磯丘陵の源流部にあたり、水生生物が生息する水路の保全のみならず、湧水の涵養域である谷戸斜面の樹林地の保全が望まれます。
- 水系においては、河川の本川と支川、用水路、水田等の水域間で、生きものが容易に双方向に移動できるように、河川構造物の配置や構造について配慮する必要があります。
- ホトケドジョウは、地域個体群の保全と遺伝的多様性の保護の観点から、流域ごとに保全対策が必要となります。このように、水生生物については、流域単位で保全対策を検討する必要があります。
- 個体群の縮小や分断化を抑えるために、西部丘陵地域の5つの調査エリア（①～⑤）については、より広域的なネットワーク構築の観点から、各調査エリア間を回廊状の緑地帯で結び、生きものが相互に移動できる経路の確保が望まれます。

● 適切な管理の推進

- 耕作放棄による湿地や草地環境の荒廃による自然環境の劣化が予想されるため、保全対策を検討する必要があります。
- 公園では、過度な管理による樹林の乾燥化や草地環境の劣化が園内に生息する指標種へ与える影響を軽減するために、保全対策を検討するとともに公園管理者等に対し適切な管理を促す必要があります。また、園芸種や観賞魚の逸出または遺棄等による在来種への影響が懸念されるため、公園管理者と連携を図りながら保全対策を検討する必要があります。
- 緑地の管理不足による竹林の拡大、樹木の高木化、樹林内のアオキやヤブツバキ等の常緑低木の繁茂等により、生物多様性が低下しつつあり、保全対策を検討する必要があります。
- 今回の調査では対象としていないイノシシ等の動物についても、湿地環境の改変等の生態系への影響が懸念されるため、状況を把握し適切な対策を取る必要があります。
- 対象地域の落葉樹林の大部分は、コナラを主体とする樹林となっており、ナラ枯れの被害が見られる樹林では樹林内の環境が大きく変化することがあり、経過観察やコナラの枯死が目立つ樹林では苗木の育成を行うことが必要です。

● 外来種対策

- 相模川寒川取水堰、水辺の楽校、北金目田んぼで確認されたナガエツルノゲイトウ、ツルノゲイトウ、ホソバツルノゲイトウは繁殖力が強いので今後駆除対策が必要です。
- オオブタクサやセイトカアワダチソウ、アレチウリが繁茂する場所があり、在来種への影響や草地環境の劣化が懸念されるため、抜き取りや刈り取り等の対策が必要です。
- ガビチョウ、ブルーギル、アメリカザリガニ、スクミリンゴガイ等の侵略的外来種については、分布状況の把握や、状況に応じた駆除対策が必要です。
- 今回の調査では対象としていないアライグマやミシシippアカミミガメ、アレチウリ等の外来種についても、状況を把握し適切な対策を取る必要があります。
- 靴や衣類についた植物の種など非意図的な外来種の侵入や、善意で外来種を持ち込んでしまう場合があります。市民への普及啓発が必要です。

● 環境の変化による影響の対策

- 気候変動の影響や治水対策により海岸浸食が進行しています。養浜事業が行われていますが、海岸の指標種の生息環境の保全対策を検討する必要があります。
- 気候変動による自然環境への影響が予想されるため、今後、モニタリング調査を実施し、保全対策を検討する必要があります。



調査協力者一覧

本評価書は、市民団体「協議会」と平塚市環境保全課による協働事業として作成いたしました。

調査班の皆様には、3年間にわたる協働期間中、評価書の基礎となるデータ収集のため、夏の酷暑や冬の厳しい寒さの中、生物調査を実施していただきました。また、評価書作成にあたり、細やかで丁寧な御意見をいただき、掲載した写真を御提供いただきました。

ここに、関係者の皆様に御礼申し上げるとともに、協議会の会員の皆様に御紹介させていただきます。

○協議会の会員の皆様（敬称略・順不同）

会長 荒井 啓三
 副会長 岸 一弘
 幹事 堀田 佳之介
 監事 柳川 三郎
 運営委員 白井 勝之、峯谷 一好、金子 典芳、斎藤 常實、安藤 克彦、吉浦 一徳、瀬下 浩、青木 雄司、柳川 美保子、斎藤 和久、恒川 礼子、佐々木 あや子、木村 喜芳

●調査班（敬称略・順不同）

植物	恒川 礼子（リーダー）、佐々木 あや子（サブリーダー）、三輪 徳子、佐々木 紀子
昆虫	堀田 佳之介（リーダー）、岸 一弘（サブリーダー）、高橋 和弘、富岡 誠一、宮田 昌之、渡邊 祥子、武末 範子、牧野田 節子、露木 和男、矢田 誠規、大津 誠、桐生 兼道、大重 律子、荒居 浩明、湯沢 和男
両生 爬虫類	瀬下 浩（リーダー）、山本 和俊（サブリーダー）
哺乳類	青木 雄司（リーダー）、柳川 美保子（サブリーダー）
鳥類	金子 典芳（リーダー）、斎藤 常實（サブリーダー）、武末 範子、牧野田 節子、安部 久美子、下倉 紘一、岩佐 昌夫、黒谷 祐介、佐藤 道夫、山田 彩子、小島 和久、小島 キヌ子、小島 興一、大重 律子、大川 幹夫、内山 規矩雄、富高 政司、鈴木 史奈、大坂 英樹、片倉 義人、松井 慎吾
魚類 甲殻類 水生貝類	斎藤 和久（リーダー）、木村 喜芳（サブリーダー）、柳川 三郎、長谷部 勇太、永井 紀行、大岩 俊雄、越光 信弘、高津 茂、佐々木 和善、坂井 昇、小林 公圀、露木 正巳、永尾 貴一、岩本 勲、西岡 哲、関戸 恵介、旭 誠司、府川 清

●写真を提供いただいた皆様（五十音順・敬称略）

青木雄司、金子 典芳、岸 一弘、木村 喜芳、斎藤 和久、佐々木 あや子、佐々木 紀子、武末 範子、堀田 佳之介、堀田 来佳、平塚市環境保全課

『本冊子の平塚市撮影の航空写真は、市町村振興宝くじ「サマージャンポ宝くじ」の収益金が充てられています。宝くじの購入は神奈川県内で!』

平塚市自然環境評価書 概要版

2022年3月発行

編集・発行 ひらつか生物多様性推進協議会
平塚市環境部環境保全課

〒254-8686 神奈川県平塚市浅間町9番1号
平塚市役所環境保全課内

電話 0463-23-9969 FAX 0463-21-9603

制作協力：景域計画株式会社